

## 血液製剤の使用状況の記入方法

平成16年度(平成16年4月1日から平成17年3月31日)の実績をお伺いします。

1. 下表の輸血用血液製剤の年間使用量を単位数(1単位は200ml由来)で記入して下さい。  
(但し、自己血輸血は総使用量から除いて下さい。)
- \* 輸血用血液製剤の対象(製品名)は、参考2を参照して下さい。
  - \* 廃棄分(期限内、期限外にかかわらず廃棄になったもの。日赤への返品を含む。)は除く。

製剤名	記入単位
赤血球濃厚液(MAP)	単位
新鮮凍結血漿	単位
血小板濃厚液	単位

2. 下表の血漿分画製剤の年間使用量(g)を記入して下さい。
- \* 備考欄の換算式により、本数からgへ換算して下さい。
  - \* 血漿分画製剤の対象(製品名)は、参考3を参照して下さい。

製剤名	規 格	記入単位	備考
アルブミン製剤			(換算式)
加熱人血漿たん白	4.4%100ml	g	1本×4.4g
	4.4%250ml	g	1本×11g
人血清アルブミン	5%100ml	g	1本×5g
	5%250ml	g	1本×12.5g
	20%20ml	g	1本×4g
	20%50ml	g	1本×10g
	25%20ml	g	1本×5g
	25%50ml	g	1本×12.5g
	合計	g	
免疫グロブリン製剤			
静注用免疫グロブリン	10ml0.5g	g	1本×0.5g
	20ml1g	g	1本×1g
	50ml2.5g	g	1本×2.5g
	100ml5g	g	1本×5g
	合計	g	

分類	製剤名	規格・単位	製品名(例示)
輸 血 用 血 液 製 劑	赤血球濃厚液	200ml由来 1袋	赤血球M・A・P「日赤」
	(MAP)	400ml由来 1袋	赤血球M・A・P「日赤」
		200ml由来 1袋	照射赤血球M・A・P「日赤」
		400ml由来 1袋	照射赤血球M・A・P「日赤」
	新鮮凍結血漿	80ml 1袋	新鮮凍結血漿「日赤」
		160ml 1袋	新鮮凍結血漿「日赤」
		450ml 1袋	新鮮凍結血漿「日赤」
	血小板濃厚液	1単位約 20ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		2単位約 40ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		5単位約100ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		10単位約200ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		15単位約250ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		20単位約250ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		1単位約 20ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		2単位約 40ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		5単位約100ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		10単位約200ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		15単位約250ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		20単位約250ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		10単位約200ml 1袋	濃厚血小板HLA「日赤」
	15単位約250ml 1袋	濃厚血小板HLA「日赤」	
	20単位約250ml 1袋	濃厚血小板HLA「日赤」	
	10単位約200ml 1袋	照射濃厚血小板HLA「日赤」	
	15単位約250ml 1袋	照射濃厚血小板HLA「日赤」	
	20単位約250ml 1袋	照射濃厚血小板HLA「日赤」	

分類	種類	規格・単位	製 剤 名 ( 例 示 )	
血 漿 分	加熱人血漿たん白	100mL1瓶	献血アルブミン-ニチャク(日本製薬=武田)	
		250mL1瓶	献血アルブミン-ニチャク(日本製薬=武田) プラスマネート・カッター(ハイエル) プラスマプロテインフラクション(ハクスター)	
	人血清アルブミン	5%100mL1瓶	献血アルブミン(5%) -Wf(ヘネシス=三菱ウエルファーマ) プミネート5%(ハクスター)	
		5%250mL1瓶	アルブミン-5%(ZLB) アルブミン(5%)・カッター(ハイエル) プミネート5%(ハクスター)	
		20%20mL1瓶	献血アルブミン-ニチャク(日本製薬=武田) 献血アルブミン20“化血研”(化血研=アルフレッサファーマ=アステラス=ZLB) 赤十字アルブミン20(日赤)	
		20%50mL1瓶	献血アルブミン-ニチャク(日本製薬=武田) 赤十字アルブミン20(日赤) アルブミン-ヘーリング(ZLB) 献血アルブミン20“化血研”(化血研=アルフレッサファーマ=アステラス=ZLB)	
		25%20mL1瓶	献血アルブミン-Wf(ヘネシス=三菱ウエルファーマ) アルブミン(25%)・カッター(ハイエル) プミネート25%(ハクスター)	
		25%50mL1瓶	赤十字アルブミン25(日赤) 献血アルブミン25“化血研”(化血研=アルフレッサファーマ=アステラス=ZLB) 献血アルブミン-Wf(ヘネシス=三菱ウエルファーマ) 献血アルブミン25-ニチャク(日本製薬=武田) アルブミン-25%(ZLB) アルブミン(25%)・カッター(ハイエル) アルブミン25%「ハクスター」(ハクスター) プミネート25%(ハクスター) アルブミン-Wf(ヘネシス=三菱ウエルファーマ)	
	画 製 剤	人免疫グロブリン (静注用)	500mg10mL 1瓶	献血ヘニン-I(化血研=帝人) 献血グロベニン-I-ニチャク(日本製薬=武田) 献血ウエノグロブリン-IHヨシミ(ヘネシス=三菱ウエルファーマ) ホリグロビンN(ハイエル) ガンマ・ヘニンP500mg(ZLB)
			1g20mL1瓶	献血ヘニン-I(化血研=帝人) 献血ウエノグロブリン-IHヨシミ(ヘネシス=三菱ウエルファーマ)
2.5g50mL 1瓶			献血ヘニン-I(化血研=帝人) 献血静注グロブリン“化血研”(化血研=アルフレッサファーマ=ZLB) ガンマ・ヘニンP2.5g(ZLB) ガンマガード(ハクスター) サングロポール(ZLB) ホリグロビンN(ハイエル) 献血ウエノグロブリン-IHヨシミ(ヘネシス=三菱ウエルファーマ) ウエノグロブリン-IH(ヘネシス=三菱ウエルファーマ) 献血グロベニン-I-ニチャク(日本製薬=武田)	
5g100mL1瓶			献血ヘニン-I(化血研=帝人) 献血グロベニン-I-ニチャク(日本製薬=武田) 献血ウエノグロブリン-IHヨシミ(ヘネシス=三菱ウエルファーマ)	
乾燥濃縮人 アンチロビンIII			500単位1瓶	アンスロピンP(化血研=ZLB) アンスロピンP-ヘーリング(ZLB) ノイアート(ヘネシス=三菱ウエルファーマ) 献血ノスロン500注射用(日本製薬=武田)
	1500単位1瓶	ノイアート静注用1500単位(ヘネシス=三菱ウエルファーマ) 献血ノスロン1500注射用(日本製薬=武田)		

## 参考 4

薬食発第1227001号  
平成16年12月27日

各都道府県知事 殿

厚生労働省医薬食品局長

### 血液製剤の平均的使用量について

血液事業の推進については、平素より格別の御高配を賜っているところである。

さて、厚生労働省では、平成16年7月、より安全・安心な輸血医療が行われることを目指し「輸血医療の安全性確保のための総合対策」を取りまとめた。同対策では、血液製剤の安全性の向上、国内自給を基本とする安定供給の確保及び医療安全の観点から、血液製剤の適正使用を推進することとしており、輸血医療を行う医療機関に対して、適正使用に関する取組を一層強化するよう要請することとしているところである。

この一環として、厚生労働省では、今般、医療機関ごとの血液製剤使用量について調査を実施し、その結果を基に病院機能別の血液製剤の標準的使用量を表Ⅰ及び表Ⅱのとおり取りまとめた。この表では、病床規模、全身麻酔手術件数、心臓手術件数等を指標として病院機能を分類し、各分類パターンごとに一床当たりの年間血液製剤使用量を表している。

については、貴職におかれては別添「我が国における血液製剤の平均的使用量に関する研究」(報告)の内容を御了知の上、貴管下医療機関に対し、下記について周知徹底願いたい。

また、同報告によると、我が国では、諸外国に比して、赤血球使用量に対するアルブミンや新鮮凍結血漿(FFP)の使用量が多いことから、貴管下医療機関に対して、一層の適正使用を図るよう併せて周知願いたい。

### 記

- 1 各医療機関は、血液製剤の使用に当たっては、個々の症例に必要な相応量は当然とするも、表Ⅰ及び表Ⅱに掲載された病院機能分類パターンを参照し、自らの施設に合致するパターンの年間使用量の50パーセント値を参考とすること。
- 2 記の1において参照する年間使用量の90パーセント値を既に超過している製剤については、当該施設内で使用量の多い原因を検討すること。

表 I 病床数・4病院機能分類別の年間血液製剤使用量

利用方法

1. 下表中の自施設の病床数と病院機能分類パターンから自施設に該当するパターンを求める。該当パターンがない施設は表Ⅱを使う。
2. 該当パターン行の右には1床当りの年間使用量が表示されているので、自施設の1床当りの年間使用量と比較する。
3. 例えばMAP50%値2.9とは対象施設の50%、半数の施設が1床当り2.9単位以下の使用量であることを示す。

注) ・各製剤の使用量は1床当りの年間使用量で表してある。  
 ・全麻手術件数の分類は1床当りの件数である。

病院機能分類パターン					MAP(U)		FFP(U)		PC(U)		アルブミン(g)	
病床	全麻	心臓	造血	血漿	50%値	90%値	50%値	90%値	50%値	90%値	50%値	90%値
小	なし	なし	なし	なし	1.6	6.2	0.3	2.3	0.8	6.4	15	76
小	少	なし	なし	なし	2.9	7.1	0.6	3.0	0.9	5.0	18	65
小	少	なし	なし	有	5.0	9.5	1.3	6.8	1.3	9.5	28	119
小	多	なし	なし	なし	3.5	8.1	0.7	4.2	1.0	5.5	16	69
小	多	なし	なし	有	6.5	22.0	6.7	22.0	2.9	36.5	52	223
中	少	なし	なし	なし	3.5	5.9	1.3	3.7	1.6	5.4	28	55
中	少	なし	なし	有	4.2	6.4	1.9	5.1	2.6	8.6	34	92
中	少	有	なし	有	6.1	18.9	4.1	18.8	3.5	16.3	21	87
中	多	なし	なし	なし	4.7	7.5	1.6	5.0	2.6	12.0	31	76
中	多	なし	なし	有	5.2	8.5	2.9	7.2	4.6	15.2	44	97
中	多	なし	有	有	9.8	14.4	4.9	9.5	23.9	49.2	49	150
中	多	有	なし	なし	6.7	10.6	3.8	11.3	4.8	19.0	43	64
中	多	有	なし	有	8.8	15.7	5.3	15.1	7.3	16.0	56	145
中	多	有	有	有	11.2	19.4	7.4	16.9	20.3	59.5	68	153
大	多	なし	なし	有	5.8	9.9	3.7	6.6	9.9	24.1	47	94
大	多	有	なし	有	7.4	13.0	5.8	11.3	7.6	17.2	60	104
大	多	有	有	有	10.0	14.3	7.7	17.0	23.6	43.4	75	134

病院機能分類パターン					グロブリン(g)		FFP/MAP		(アルブミン/3 <sup>*</sup> )/MAP		((アルブミン/3 <sup>*</sup> )+FFP)/MAP	
病床	全麻	心臓	造血	血漿	50%値	90%値	50%値	90%値	50%値	90%値	50%値	90%値
小	なし	なし	なし	なし	1.4	9.8	0.18	1.16	3.26	14.47	3.14	13.61
小	少	なし	なし	なし	1.4	5.3	0.21	0.81	1.92	6.86	2.22	7.21
小	少	なし	なし	有	2.2	10.0	0.34	1.20	2.84	8.85	2.92	9.58
小	多	なし	なし	なし	1.3	5.9	0.25	0.98	1.53	5.34	1.74	6.21
小	多	なし	なし	有	2.9	5.7	0.54	1.70	2.00	5.80	2.45	7.44
中	少	なし	なし	なし	2.0	5.6	0.36	0.98	2.53	5.54	3.01	5.85
中	少	なし	なし	有	2.4	6.4	0.46	1.08	2.48	5.79	2.87	6.60
中	少	有	なし	有	1.7	4.8	0.62	1.63	1.19	3.18	1.93	3.76
中	多	なし	なし	なし	2.7	5.5	0.32	1.02	1.85	4.64	2.40	5.20
中	多	なし	なし	有	3.5	7.6	0.55	1.22	2.33	4.68	3.04	5.40
中	多	なし	有	有	4.5	10.3	0.48	0.87	2.04	4.67	2.40	5.32
中	多	有	なし	なし	2.3	5.0	0.56	0.93	1.60	4.09	2.37	4.76
中	多	有	なし	有	3.6	6.7	0.64	1.25	1.92	4.42	2.74	6.06
中	多	有	有	有	6.2	17.8	0.80	1.35	1.73	5.17	2.59	6.40
大	多	なし	なし	有	3.7	11.7	0.49	1.14	2.24	4.57	2.76	5.15
大	多	有	なし	有	4.8	8.9	0.79	1.15	2.07	6.19	2.68	7.01
大	多	有	有	有	6.5	12.1	0.74	1.42	1.81	4.23	2.67	5.38

\* アルブミン3gをFFP1単位に相当するとして算出

病院別、病院機能別分類

病院機能(略称)	分類		
一般病床規模(病床)	小: 20-199床	中: 200-499床	大: 500床以上
全麻手術件数(全麻)	なし	少: 2.00件未満/年・病床当り	多: 2.00件以上/年・病床当り
心臓手術(心臓)	なし	有	
造血幹細胞移植(造血)	なし	有	
血漿交換(血漿)	なし	有	

表Ⅱ 病院機能分類別の血液製剤使用量

利用方法

1. 下表中の自施設の病床数と病院機能分類パターンから自施設に該当するパターンを求める。
2. 該当パターン行の右には1床当りの年間使用量が表示されているので、自施設の1床当りの年間使用量と比較する。
3. 例えばMAP50%値3.1とは対象施設の50%、半数の施設が1床当り3.1単位以下の使用量であることを示す。

- 注) ・表中の各製剤の使用量は1床当りの年間使用量で表してある。  
 ・全麻手術件数の分類は1床当りの件数である。  
 ・表Ⅰに該当パターンがない施設が対象となるが、病床数が「大」で全麻が「なし」に該当する施設は少数であることから平均使用量算出から除外してある。  
 ・90%値は該当施設数が11件以上ある場合のみ算出した。

機能パターン		MAP(U)		FFP(U)		PC(U)		アルブミン(g)	
病床	全麻	50%値	90%値	50%値	90%値	50%値	90%値	50%値	90%値
小	なし	1.6	6.2	0.3	2.3	0.8	6.6	15	76
小	少	3.1	7.7	0.7	3.8	1.0	6.9	19	70
小	多	3.8	10.1	1.0	9.3	1.3	10.1	22	90
中	なし	0.1	—	0.1	—	0.4	—	3	26
中	少	4.2	7.0	1.8	5.0	2.5	8.8	30	74
中	多	5.8	12.4	3.2	9.5	5.7	23.0	42	105
大	少	4.1	9.9	1.5	7.5	6.2	28.8	20	91
大	多	9.3	13.9	6.5	14.1	19.5	38.9	69	131

機能パターン		グロブリン(g)		FFP/MAP		(アルブミン/3 <sup>*</sup> )/MAP		((アルブミン/3 <sup>*</sup> )+FFP)/MAP	
病床	全麻	50%値	90%値	50%値	90%値	50%値	90%値	50%値	90%値
小	なし	1.4	9.9	0.17	1.20	3.24	14.51	3.16	13.63
小	少	1.5	5.7	0.24	0.90	1.96	7.10	2.26	7.28
小	多	1.7	6.8	0.31	1.21	1.64	5.48	1.84	6.23
中	なし	0.4	—	0.31	—	4.91	—	6.76	—
中	少	2.1	6.1	0.41	1.03	2.27	5.52	2.80	5.88
中	多	3.3	7.6	0.53	1.16	1.99	4.48	2.65	5.35
大	少	2.5	6.4	0.54	1.06	1.37	5.69	1.67	6.51
大	多	5.8	11.8	0.72	1.32	1.84	4.40	2.67	5.37

\* アルブミン3gをFFP1単位(U)に相当するとして算出

病院別、病院機能別分類

病院機能(略称)	分類		
一般病床規模(病床)	小: 20-199床	中: 200-499床	大: 500床以上
全麻手術件数(全麻)	なし	少: 2.00件未満/年・病床当り	多: 2.00件以上/年・病床当り

## 「血液製剤平均的使用量調査票」記入要領

「血液製剤平均的使用量調査」は、貴医療機関の平成16年度の血液製剤の使用量を、平成14年度(平成16年厚生労働省医薬食品局長通知「血液製剤の平均的使用量について」(参考4))と比較するために行うものです。

血液製剤平均的使用量調査票(以下「調査票」という。)による記入に当たっては、以下の記入要領をご参考に御回答下さい。

### <調査票1のA表関係>

1. 貴医療機関の病院機能分類パターンで、該当するものを選択して下さい。

\* (2)～(5)は平成16年度実績で御回答下さい。

(1) 一般病床規模(病床)

血液製剤適正使用実態調査票Iの問1で御回答頂いた病床数で、以下の病床規模に該当するものを選択して下さい。

ア 小                  イ 中                  ウ 大

小	中	大
20～199床	200～499床	500床以上

(2) 全麻手術件数(全身麻酔下手術件数)

ア. なし      イ. 2.00件未満/年・1床当たり      ウ. 2.00件以上/年・1床当たり

なし	少	多
	2.00件未満/年・1床当たり	2.00件以上/年・1床当たり

(3) 心臓手術:ア. なし      イ. 有

(4) 造血幹細胞移植:ア. なし      イ. 有

(5) 血漿交換:ア. なし      イ. 有

<調査票2のB表関係>

2. 使用量

貴医療機関の下記の血液製剤の使用量(平成16年度実績、(A))を、使用病床数(B)で除して、1床当たりの使用量(C)を算出して下さい。

- ・参考1を元に、赤血球濃厚液(MAP)と新鮮凍結血漿(FFP)及び血小板濃厚液(PC)は「単位」数で、「アルブミン製剤」及び「免疫グロブリン製剤」は「g」で記載して下さい。
- ・対象製剤は、参考2～3を参照して下さい。

	A * 1		B * 2		C	
赤血球濃厚液	( )単位	÷	( )	床 =	( )	単位
新鮮凍結血漿	( )単位	÷	( )	床 =	( )	単位
血小板濃厚液	( )単位	÷	( )	床 =	( )	単位
アルブミン製剤	( )g	÷	( )	床 =	( )	g
免疫グロブリン製	( )g	÷	( )	床 =	( )	g

} B表の「使用量」欄へ記入して下さい。

- \* 1: 血液製剤適正使用実態調査票Ⅰの問4の回答値と同じ数値
- \* 2: 血液製剤適正使用実態調査票Ⅰの問1の回答値と同じ数値

3. 標準的使用量との比較

- ① 下表で、1で選択した病院機能分類パターンを選択し、各製剤の該当する使用量欄に、2で算出した使用量(C)を記載して下さい。
- ② 各製剤毎に、記載した使用量と下表の「50%値」及び「90%値」を比較して、該当するものを調査票B表の(1)～(3)で選択して下さい。

\* 下表は、参考4の厚生労働省医薬食品局長通知の表Ⅰ及び表Ⅱを元に作成したものです。  
 \* 各製剤の「50%値」及び「90%値」とは、平成15年度調査時の「1床当たりの平均的使用量」(平成14年実績)の数値です。参考値です。  
 (例: MAP50%値2.9とは、対象施設の50%、半数の施設が1床当たり2.9単位以下の使用量であることを示す。)

病院機能分類パターン					MAP(U)			FFP(U)			PC(U)			アルブミン(g)			グロブリン(g)		
(1)病床	(2)全麻	(3)心臓	(4)造血	(5)血漿	使用量	50%値	90%値	使用量	50%値	90%値	使用量	50%値	90%値	使用量	50%値	90%値	使用量	50%値	90%値
ア.小	ア.なし	ア.なし	ア.なし	ア.なし		1.6	6.2		0.3	2.3		0.8	6.4		15	76		1.4	9.8
ア.小	ア.なし	上記以外				1.6	6.2		0.3	2.3		0.8	6.6		15	76		1.4	9.9
ア.小	イ.少	ア.なし	ア.なし	ア.なし		2.9	7.1		0.6	3.0		0.9	5.0		18	65		1.4	5.3
ア.小	イ.少	ア.なし	ア.なし	イ.有		5.0	9.5		1.3	6.8		1.3	9.5		28	119		2.2	10.0
ア.小	イ.少	上記以外				3.1	7.7		0.7	3.8		1.0	6.9		19	70		1.5	5.7
ア.小	ウ.多	ア.なし	ア.なし	ア.なし		3.5	8.1		0.7	4.2		1.0	5.5		16	69		1.3	5.9
ア.小	ウ.多	ア.なし	ア.なし	イ.有		6.5	22.0		6.7	22.0		2.9	36.5		52	223		2.9	5.7
ア.小	ウ.多	上記以外				3.8	10.1		1.0	9.3		1.3	10.1		22	90		1.7	6.8
イ.中	ア.なし					0.1	-		0.1	-		0.4	-		3	26		0.4	-
イ.中	イ.少	ア.なし	ア.なし	ア.なし		3.5	5.9		1.3	3.7		1.6	5.4		28	55		2.0	5.6
イ.中	イ.少	ア.なし	ア.なし	イ.有		4.2	6.4		1.9	5.1		2.6	8.6		34	92		2.4	6.4
イ.中	イ.少	イ.有	ア.なし	イ.有		6.1	18.9		4.1	18.8		3.5	16.3		21	87		1.7	4.8
イ.中	イ.少	上記以外				4.2	7.0		1.8	5.0		2.5	8.8		30	92		2.1	6.1
イ.中	ウ.多	ア.なし	ア.なし	ア.なし		4.7	7.5		1.6	5.0		2.6	12.0		31	76		2.7	5.5
イ.中	ウ.多	ア.なし	ア.なし	イ.有		5.2	8.5		2.9	7.2		4.6	15.2		44	97		3.5	7.6
イ.中	ウ.多	ア.なし	イ.有	イ.有		9.8	14.4		4.9	9.5		23.9	49.2		49	150		4.5	10.3
イ.中	ウ.多	イ.有	ア.なし	ア.なし		6.7	10.6		3.8	11.3		4.8	19.0		43	64		2.3	5.0
イ.中	ウ.多	イ.有	ア.なし	イ.有		8.8	15.7		5.3	15.1		7.3	16.0		56	145		3.6	6.7
イ.中	ウ.多	イ.有	イ.有	イ.有		11.2	19.4		7.4	16.9		20.3	59.5		68	153		6.2	17.8
イ.中	ウ.多	上記以外				5.8	12.4		3.2	9.5		5.7	23.0		42	105		3.3	7.6
ウ.大	イ.少					4.1	9.9		1.5	7.5		6.2	28.8		20	91		2.5	6.4
ウ.大	ウ.多	ア.なし	ア.なし	イ.有		5.8	9.9		3.7	6.6		9.9	24.1		47	94		3.7	11.7
ウ.大	ウ.多	イ.有	ア.なし	イ.有		7.4	13.0		5.8	11.3		7.6	17.2		60	104		4.8	8.9
ウ.大	ウ.多	イ.有	イ.有	イ.有		10.0	14.3		7.7	17.0		23.6	43.4		75	134		6.5	12.1
ウ.大	ウ.多	上記以外				9.3	13.9		6.5	14.1		19.5	38.9		69	131		5.8	11.8

MAP: 赤血球濃厚液(MAP)総使用量 FFP: 新鮮凍結血漿の総使用量 PC: 血小板濃厚液の総使用量  
 アルブミン: アルブミン製剤の総使用量 グロブリン: 免疫グロブリン製剤の総使用量

病床別、病院機能別分類(平成16年度実績)

病院機能(略称)	分類		
	ア.小: 20~199床	イ.中: 200~499床	ウ.大: 500床以上
(1)一般病床規模(病床)	ア.小: 20~199床	イ.中: 200~499床	ウ.大: 500床以上
(2)全麻手術件数(全麻)	ア.なし	イ.少: 2.00件未満/年・病床当り	ウ.多: 2.00件以上/年・病床当り
(3)心臓手術(心臓)	ア.なし	イ.有	
(4)造血幹細胞移植(造血)	ア.なし	イ.有	
(5)血漿交換(血漿)	ア.なし	イ.有	

注)・各製剤の使用量は、1床当たりの年間使用量で表示  
 ・全麻手術件数の分類は1床当りの件数である



病態別・術式別血液製剤使用量調査票用

(記入例 1)

1 胃癌(全摘手術例のみ) (100症例/年) 効率的血液準備法 注1(T&S法、MSBOS、SBOE、該当無し)

注1:該当するものに○を付けて下さい。

注2:「投与直前」とは、術前1日以内

使用薬剤 投与量 患者番号 (I. D. 番号)	年 齢	性 別	身 長	体 重	リンパ節 郭清	stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	出血量	赤血球濃厚液 (MAP)		新鮮凍結血漿		血小板濃厚液		アルブミン製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清7.6%注2)		自己血 (貯血式又は 希釈式) *回収式を除く	備 考 注3:記録があれば 記入して下さい
										総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値 (万/μL)	総使用量 (g)	投与直前 検査値 (g/dL)		
1 患者番号 (1111)	55	①男 ②女	160	70	①D0 ②D1 ③D2 ④D3以上	( )	糖尿病	①有 (自己血輸血の 併用:有(無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ↑1,100ml	総使用量 (6) うち術中 (4)	無・有 ( ) Hb値 (6.5/dL) Ht値 (20%)	総使用量 (0) うち術中 (0)	無・有 ( ) PT値 (INR ) APTT値 ( % ) フィブリノゲン値 ( mg/dL )	総使用量 (0) うち術中 (0)	血小板数 ( ) うち術中 (0)	総使用量 (0) うち術中 (0)	アルブミン濃度 ( ) うち術中 (0)	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液(4)単位 新鮮凍結血漿(0)単位 血小板濃厚液(0)単位 アルブミン製剤(0)g

学会等の基準による分類で記載して下さい。

術中のみ

術中及び術前後の値

\* 2「肝細胞癌(亜区域切除例以上)」、4「直腸癌(前方切除例のみ)」、5「胸部食道癌(内視鏡術は除く)」は、1に準じて記入して下さい。

109

3 心臓病(人工心肺使用例のみ) (10症例/年) 効率的血液準備法 注1(T&S法、MSBOS、SBOE、該当無し)

注1:該当するものに○を付けて下さい。

注2:「投与直前」とは、術前1日以内

使用薬剤 投与量 患者番号 (I. D. 番号)	年 齢	性 別	身 長	体 重	術 式	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	出血量	赤血球濃厚液 (MAP)		新鮮凍結血漿		血小板濃厚液		アルブミン製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清7.6%注2)		自己血 (貯血式又は 希釈式) *回収式を除く	備 考 注3:記録があれば 記入して下さい
									総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値 (万/μL)	総使用量 (g)	投与直前 検査値 (g/dL)		
1 患者番号 (3333)	40	①男 ②女	150	40	①大動脈解離に対する血管置換術 ②弁置換術 ③冠動脈バイパス術	高血圧	①有 (自己血輸血の 併用:有(無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ↑1,400ml	総使用量 (7) うち術中 (5)	無・有 ( ) Hb値 (7.0/dL) Ht値 (23.0%)	総使用量 (0) うち術中 (0)	無・有 ( ) PT値 (INR ) APTT値 ( % ) フィブリノゲン値 ( mg/dL )	総使用量 (0) うち術中 (0)	血小板数 ( ) うち術中 (0)	総使用量 (2.5) うち術中 (2.5)	アルブミン濃度 (2.5) うち術中 (0)	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液(6)単位 新鮮凍結血漿(0)単位 血小板濃厚液(0)単位 アルブミン製剤(0)g

術中のみ

術中及び術前後の値

(記入例 2)

6 脳腫瘍(神経膠腫又は髄膜腫に限る) (50 症例/年) 効率的血液準備法 注1(T&S法、MSBOS、SBOE、該当無し)

注1: 該当するものに○を付けて下さい。

注2: 「投与直前」とは、術前1日以内

使用薬剤 投与量	年 患者番号 (I. D. 番号)	性 別	身 長	体 重	疾患名 stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	出血量	赤血球濃厚液 (MAP)		新鮮凍結血漿		血小板濃厚液		アルブミン製剤 (加熱人血漿蛋白+人血漿74732)		自己血 (貯血式又は 希釈式) *回収式を除く	備考
									総使用量 (単位)	投与直前 検査値 注2	総使用量 (単位)	投与直前 検査値 注2	総使用量 (単位)	投与直前 検査値 注2	総使用量 (g)	投与直前 検査値 注2		
1	患者番号 (6666)	①男 ②女	30 170 cm	65 kg	①神経膠腫 (膠芽腫) ②髄膜腫 stage ( )	無(有) ウイルス (感染症)	①有 (自己血輸血の 併用: 有(無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ↑ 800 ml	総使用量 (4) うち術中 (4)	無(有) Hb値 (7.5/dL) Ht値 (23%)	総使用量 (0) うち術中 (0)	無・有 PT値 (INR ) ( ) APTT値( % ) (倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 血小板数 ( ) うち術中 (0)	総使用量 (0) うち術中 (0)	総使用量 (0) うち術中 (0)	アルブミン濃度 ( ) うち術中 (0)	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液(0)単位 新鮮凍結血漿(0)単位 血小板濃厚液(0)単位 アルブミン製剤(0)g

学会等の基準による分類で記載して下さい。

術中のみ

術中及び術前後の値

\* 7「脳血管疾患(くも膜下出血又は脳内出血に限る。但し脳血管クランプは除く)」は、6に準じて記入して下さい。

8 子宮癌(広汎子宮全摘術のみ) (30 症例/年) 効率的血液準備法 注1(T&S法、MSBOS、SBOE、該当無し)

注1: 該当するものに○を付けて下さい。

注2: 「投与直前」とは、術前1日以内

使用薬剤 投与量	年 患者番号 (I. D. 番号)	身 長	体 重	stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	出血量	赤血球濃厚液 (MAP)		新鮮凍結血漿		血小板濃厚液		アルブミン製剤 (加熱人血漿蛋白+人血漿74732)		自己血 (貯血式又は 希釈式) *回収式を	備考
								総使用量 (単位)	投与直前 検査値 注2	総使用量 (単位)	投与直前 検査値 注2	総使用量 (単位)	投与直前 検査値 注2	総使用量 (g)	投与直前 検査値 注2		
1	患者番号 (8888)	45	158 58 cm kg	( )	無(有) 高血圧	①有 (自己血輸血の 併用: 有(無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ↑ 5,100 ml	総使用量 (25) うち術中 (20)	無(有) Hb値 (6.8/dL) Ht値 (21%)	総使用量 (20) うち術中 (10)	無・有 PT値 (INR 2.1) ( ) APTT値(60%) (倍) フィブリノゲン値 (170 mg/dL)	無・有 血小板数 ( ) うち術中 (0)	総使用量 (0) うち術中 (0)	総使用量 (0) うち術中 (0)	アルブミン濃度 ( ) うち術中 (0)	採血量 注3 800 ml 使用量 800 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液(4)単位 新鮮凍結血漿(0)単位 血小板濃厚液(0)単位 アルブミン製剤(0)g

学会等の基準による分類で記載して下さい。

術中のみ

術中及び術前後の値

\* 9「分娩時異常出血」は、8に準じて記入して下さい。

(記入例 3)

10② 急性リンパ性白血病(15歳以下かつ化学療法のみ。) ( 5 症例/年)

総用量は、寛解導入療法後から、8週間迄の血液製剤の使用量を記載して下さい。

注1:「投与直前」とは、投与前1日以内

使用薬剤 投与量 患者番号 (I. D. 番号)	年 齢	性 別	身 長	体 重	初回例 再発例 の区分	血液製剤 の投与の 有無	主な合併症	寛解・ 不応 の区分	赤血球濃厚液 (MAP)		新鮮凍結血漿		血小板濃厚液		免疫グロブリン製剤	
									総使用量 (単位)	初回投与直前 検査値 注1	総使用量 (単位)	初回投与直前 検査値 注1	総使用量 (単位)	初回投与直前 検査値 注1	総使用量 (g)	使用理由
1 患者番号 (1111)	11	①男 ②女	149 cm	35 kg	①初回 ②再発	①有 ②無	無・有 ①感染症 ②DIC ③臓器出血の危険性 (有・無) ④その他 ( )	①寛解 要日数 (23) ②不応 ( )	総使用量 (10)	無(有) Hb値 (5.8/dL) Ht値 (16.0%)	総使用量 (0)	無・有 PT値 (INR ) ( ) APT値 ( % ) ( 倍 ) フィブリノゲン値 ( mg/dL )	総使用量 (40)	血小板数 投与直前値 (1.2) 投与前より前の値 (4.5)	総使用量 (50) 総投与回数 (1)	①重症感染症 ②無顆粒球症 ③その他 ( )

\* 10①「急性骨髄性白血病」(16歳以上かつ化学療法のみ。)については、10②に準じて記入して下さい。

10③ 急性白血病(20歳以上、同種造血幹細胞移植症例) ( 3 症例/年)

総用量は、移植後(移植日をday0とする)から4週間までの血液製剤の使用量を記載して下さい。

注1:「投与直前」とは、投与前1日以内

使用薬剤 投与量 患者番号 (I. D. 番号)	年 齢	性 別	身 長	体 重	移植及び病 のタイプ	血液製剤 の投与の 有無	主な合併症	赤血球濃厚液 (MAP)		新鮮凍結血漿		血小板濃厚液		免疫グロブリン製剤	
								総使用量 (単位)	初回投与直前 検査値 注1	総使用量 (単位)	初回投与直前 検査値 注1	総使用量 (単位)	初回投与直前 検査値 注1	総使用量 (g)	使用理由
1 患者番号 (2222)	21	①男 ②女	158 cm	42 kg	移植 ①骨髄移植 (血縁・非 血縁) ②臍帯血幹 細胞移植 ③末梢血幹 細胞移植 疾患 ①リンパ性 ②骨髄性	①有 ②無	無(有) ①感染症 ②DIC ③臓器出血の危険性 (有・無) ④その他 ( )	総使用量 (6)	無(有) Hb値 (6.8/dL) Ht値 (16.8%)	総使用量 (10)	無(有) PT値 (INR 2.0) ( % ) APT値 (25%) ( 倍 ) フィブリノゲン値 (40 mg/dL)	総使用量 (80)	血小板数 投与直前値 (1.2) 投与前より前の値 (4.1)	総使用量 (100) 総投与回数 (2)	①重症感染症 ②無顆粒球症 ③その他 (ウイルス 感染予防)

